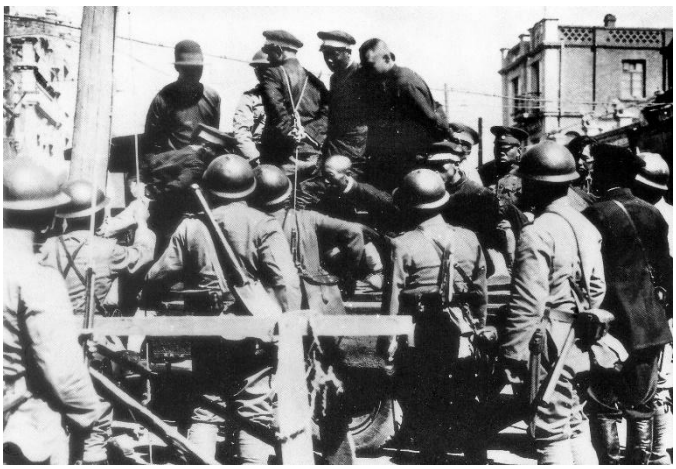
中国人民の抗日運動の容赦ない鎮圧

「満州国」の建国（事実上の占領)は、中国人民の反満抗日運動を一気に高めました。現地人は家と土地を奪われ奴隷のように扱う日本人には、立ち向かうしか生きるすべはありませんでした。中国軍と民衆は、はじめは抗日ゲリラを組織し、後には抗日連軍(抗日勢力の連合軍）を編成して、長期にわたる苦しい武装闘争を続けました。関東軍は抗日武装勢力を鎮圧するため、軍隊、警察、憲兵、特務機関（スパイ活動や特殊工作を担当する特別の軍事組織）を総動員して、抗日武装勢力の活動地域を討伐しました。そのため住民に対する迫害や虐殺が多発しました。

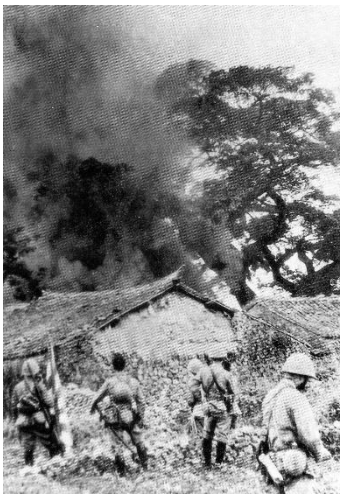
関東軍の「抗日」ゲリラの
弾圧・虐殺は目を覆うばかり

奉天（瀋陽)の抗日市民を逮捕する日本軍



(写真は 「写真記録日中戦争」 2巻 ほるぷ出版より)

中国農村を焼き尽くす日本軍



(写真は 『中国抗日戦争図誌』上巻 柏書房より)

《日本側の呼ぶ「匪賊」とは》

「満州国」に反対する抗日ゲリラ

- 旧軍閥系のかなり組織化された部隊
- 一種の武装宗教団体（大刀会(たいとうかい)、紅槍会(こうそうかい)など)
- いわゆる馬賊(ばぞく)といわれる農民の自衛的武装集団
- 共匪(きょうひ)といわれた中国共産党の遊撃隊土匪(どひ)といわれる正真正銘の匪賊

「満州国」の「匪賊」(抗日分子）出現回数

1933 年度	1 万 3072 回
1934 年度	1 万 3395 回
1935 年度	3 万 9150 回
1936 年度	3 万 6517 回

日本軍による「抗日分子」の処刑現場

処刑の介添え人には親日派、
あるいは中国人官憲があてられた

(写真は「写真記録日中戦争」2巻 ほるぷ出版より)